

# 2017年度ゴミ弁連総会報告

安藤隆(たまあじさいの会 事務局)

ゴミ弁連の正式名称は「たたかう住民とともにゴミ問題の解決をめざす弁護士連絡会」であり、その目的とするところは「廃棄物に起因する紛争において、住民およびその子孫の生命と健康・環境を守ること」とある。全国に散在する廃棄物に関わる多くの住民運動は、この理念の基に集まった弁護士の方々に助けられていると言える。20年前、二ツ塚処分場建設反対運動が燃え上がっていた頃、ゴミ弁連の総会が日の出で行われた。それから全国各地の反対運動の現場を転々と総会の場として選びながら、今回再び日の出に戻ってきたわけである。7月2日青梅市「かんぼの宿」に全国から集まった人々は71人、例年通り1日目は午後1時から始まり6時半に終わった。当日のプログラムは以下の通りである。

## セッション1 「日の出処分場・エコセメント化施設問題の現状」

- ・これまでの経過と現状説明 釜井英法
- ・日の出処分場・エコセメント化施設問題の論点と解説 梶山正三
- ・日の出住民運動の歩み 安藤隆

## セッション2 「この国の司法制度」 中村敦夫

## セッション3 「内部被爆とバグフィルター神話」 矢ヶ崎克馬

## セッション4 パネルディスカッション「日の出処分場、エコセメント化施設の問題点を巡って～環境を守る住民運動の問題点」

パネラー 高取敦、矢ヶ崎克馬、樋渡俊一、大沢豊、中西四七生

## セッション5 「各地からの報告」

- ・山形県広域ごみ溶融炉処理計画 結城玲子
- ・浪江町山林火災と放射能拡散 青木一政
- ・南相馬・20ミリ訴訟 小澤洋一
- ・一関市大東清掃センターにおける「8000ベクレル超の汚染牧草焼却」報告 菊池弘道
- ・福島県における指定廃棄物の問題 和田央子
- ・岡山火葬場問題の報告 片山 直美
- ・高梁・佐与谷産廃の報告 高田好夫
- ・安曇野市三里小倉の廃棄物処理問題報告 和田悦昭
- ・宮田の環境を守る会の取り組みについて 住民代表

セッション1では基調報告として、釜井弁護士より日の出の裁判の経過の説明とそれを通して見える司法の限界と可能性、この裁判を通して感じたことについて話された。基調講演として梶山弁護士が話されたことは、住民運動が直面する行政・法律・裁判所の壁と住民運動の利点と弱点について、谷戸沢・二ツ塚処分場の問題点、エコセメント化

施設で起きている環境汚染の現状、主任弁護士として関わった日の出の裁判を通して見えたこと等についてパワーポイントで説明された。

日の出住民運動の歩みについては、歴史的又は事件別に運動を整理してみると、多岐にわたって多様な団体がその時々自主的に活動を行った、エネルギーに満ちた運動であったことがパワーポイントで語られた。セッション2の中村敦夫氏は氏が国会の法務委員会に所属していた時の経験を基に裁判官が法務省に出向し、国の代理人を務める訴務検事など就任した後、再び裁判官に戻って行く「判検交流」について語り、これで司法の独立性が担保できるかと話された。セッション3、琉球大学名誉教授の矢ヶ崎克馬先生の講演は原子力災害は収まったかのようにされているが、実際はむしろ反対の方向へ向かっている。その影にはIAEAやICRPのチェルノブイリを教訓とした陰謀があり、日本政府の意図的操作があると話され、科学を装った嘘の一例として、バグフィルターによる汚染物質捕捉神話に対しての科学的反論を話された。低線量被爆による健康被害のメカニズムと実際に起こっている状況をデータで示された。沖縄で見られる11年以後の老衰・アルツハイマー・精神および行動の障害の急増、その原因が福島米の大量移入等にあると述べられた。

セッション4のパネルディスカッションは梶山弁護士がコーディネーターを務め、「環境を守る住民運動」について各分野からパネラーの発言がなされた。セッション5は廃棄物に絡む問題を抱える各地の住民の実情が報告された。

7月3日は午前10時から総会が行われ、昨年度の会計報告や各地の住民が抱える問題に対する討議、アドバイスなどが行われた。11時半に終了、昼食の後12時半からバス・車に分乗し谷戸沢処分場、エコセメント化施設、ちくりん舎を見学し3時半に解散となった。非常に厳しいスケジュールの中、日の出問題に関わる住民、日の出の森・水・命の会、たまあじさいの会、日の出の森・支える会の協力で総会を無事終了できた。

